



ヤングケアラーの笑顔

大田区立貝塚中学校 二年 永井 彩夢

私の友達は、同居する祖父母の介護をし、まだ幼い兄弟達の面倒を見ている。いわゆる「ヤングケアラー」だ。彼女の両親は共働きで夜遅くまで帰ってこないため、彼女が料理や洗濯などの家事をこなしつつ、学校に登校している。彼女の一日はとても忙しく、毎日目の下に隈を作っていた。そんな生活を送っていると疲労やストレスが溜まりやすい。彼女は私に頻繁に悩みを打ち明けてくれたが、まだ中学生である私は彼女の助けになることができなかった。

それでも私は何か彼女の役に立ちたいと思い、ヤングケアラーの支援について調べてみることにした。調べるうちに、国や市区町村がヤングケアラーに様々な支援を行っていることを知った。主な支援内容は、ヤングケアラーに支援金を支給すること、ヤングケアラーを支援する民間団体と専門家であるコーディネーターをつなぐことだ。そして、それらの支援はすべて「税」によって成り立っていた。さらに深く調べてみると、ヤングケアラーのための相談窓口や当事者同士の思いを共有できるイベントの設置、運営費にも税が使われていた。支援金を支給するだけでなく、ヤングケアラーの悩みを取り除き、解決するべくあらゆる活動が行われている。この支援方法はその場しのぎではなく長期的な支援になるため、

とても有効的だと思った。

それを知ってから、私の税に対する印象が大きく変わった。今までは税が何に使われているのかは詳しく知ることもなく、知ろうともしなかった。だが調べてみて、税金の使い道は国や市区町村の運営費や保険料だけでなく、支援を必要とする人たちのためにも使われていることが分かった。私一人ではヤングケアラーの問題を解決することはできない。しかし、国民みんなが税金を納めることでお金が集まり、より専門的で、きめ細かい支援をすることができる。国民みんなが納めた税金が、困っている誰かの助けになるのだ。

今、ヤングケアラーで悩んでいた彼女は、元気に学校に登校できるようになった。地域の窓口と相談し、専門家や支援団体を通して家族とも相談を重ねたことで、両親と彼女の三人で家事や介護を分担し、彼女の負担が少なくなるように調整したそうだ。また、ヤングケアラーが集うイベントで同じような境遇の人と悩みを共有でき、安心感が生まれたと話していた。ストレスが少なくなった彼女は隈を作ることもしなくなり、最近よく笑うようになった。彼女の笑顔はきっと国民みんなで作った笑顔なのだと思う。この笑顔をこの先も保っていくために、そして悩んでいる人たちの負担を少しでも軽減していくために、私はこれからも税について学び、考えていきたいと思う。納税は、私たちにとって一番身近な支援活動に繋がっているのだ。